

区分・種別	県指定有形文化財（絵画）		
名 称	せいちゃふうぞくずびょうぶ 製茶風俗図屏風 1双		
所 在 地	松山市堀の内 愛媛県美術館		
所 有 者	愛媛県	管 理 者 団 体	
指定年月日	昭和55年3月21日		
解 説	<p>この屏風は紙本金砂子の着色で縦161.5cm、横358cm、江戸時代初期に松山藩の絵師松本山雪が描いたものである。山雪は松平定行に伴って松山に来た絵師で、岨巔とも号し、墨絵の名手で特に馬の絵を得意とした。生年は明らかでないが、延宝4年（1676）に没し、その墓は松山市土居町の万福寺にある。本図は、六曲屏風一双にわたって、山水の中に高閣、高楼及び橋梁を配し、製茶作業にいそしむ人々を細密に描写した力作で、精彩に富んでいる。図中に多数描かれている人物などはいずれも小さく表現されているが、それぞれ生き生きとした動きが感じられて実にすばらしい。当屏風全体の彩色などは極めて高雅であり、金泥、金砂子などを使った技法に特色がみられ、山雪の遺墨中まれにみる秀作である。</p>		

